

不空罽索観音(サンスクリット語：Amoghapasa)

不空罽索(別名：不空罽索)は、観音の多くの顕現の一です。この描写は極めて稀です。これは十一面をもつ唯一の神像です。観世音寺は何世紀も前に本尊として十一面観音像を安置することを計画していたと歴史家は考えています。理由は不明ですが、この計画は実現しませんでした。しかし、予定していたその像の十一個の頭は不空罽索観音を飾るために転用されました。

不空罽索観音は剣を振るい、迷える魂を捕え救いに導くために使う縄の輪を携えています。他の道具は蓮花や仏子、杖(笏)です。

不空罽索の最初の像は奈良時代中期(710~94 年)に制作された塑像です。その像は 1221 年に倒れて粉砕してしまいました。ここで見られる木像は翌年制作されたもので、内側に最初の像の粘土の破片が配置されていました。像高は 517cm で、その迫力ある外観と力強い表情はこの時代の典型です。